

OUR SPORTS 東京

新日本スポーツ連盟東京都連盟機関紙

〒 170-0013 豊島区東池袋 2-39-2
大住ビル 401

TEL: 03-3981-1345 FAX: 03-3981-8315

E-mail njsf@tokyo.email.ne.jp

11月号 2009年11月12日

発行責任者: 都連盟理事長 萩原 純一

2016 オリンピックは **リオデジャネイロ!**

東京落選 を振り返って・・・ みなさんに聞きました!

森 良太さん (ランニング)

東京の招致活動を振り返ると、オリンピックがめざす「平和」という姿勢がほとんどありませんでした。有名人や、アスリートを動員しましたが、一般のスポーツ愛好者の動向に対しては関心が薄かったですね。これからは、東京都はもっと我々一般のスポーツ愛好者の声を聞いて、まちづくりにも活かすべきです。例えば、多摩川のランニングコースを整備し、休憩所やトイレを増やしてほしいですね。

神宮 広明さん (卓球)

正直いって最終選考まで残ったり評価委員の反応も良かったので、招致されたても良いかなと思っていましたが、落選したのはリオのように南米大陸で初めてのオリンピックの開催というような明確な大義名分がなかったからではないでしょうか。そして都民の盛り上げにかけた部分だったのではないのでしょうか。また今日の経済不況のなかで日本ではスポーツに関心を寄せる風土が育っていないのではないのでしょうか。

青嶋 繁太郎さん (ウォーキング)

近代オリンピックは、五つの大陸 (当時) の団結と、世界中の競技者たちがオリンピック競技大会に集うことを呼びかけています。その五輪旗の五つの輪は連結されていて、世界平和実現への連帯を願っています。アメリカ大陸は、現在、北アメリカ大陸と南アメリカ大陸とに分かれ、まだ開催されていない南アメリカ大陸のリオデジャネイロでの開催決定はその意味でも意義があると思います。

角田 範夫さん (剣道)

オリンピック開催の理念は「世界の平和と友好とスポーツの祭典」です。開催地を名乗るのであれば、この理念に基づいて国民がまとまり、内外にその具体的な方策を示す事が必要だったと思います。オリンピックを招致できるのは、民主主義と生涯スポーツを大切にす国と指導者であるべきです。



開催地に決定し喜びリオ市民 (上) と、落選が決まり悔しさをにじませる石原都知事 (下)

小川 洋さん (スキー)

東京都がオリンピック招致にたくさん税金を使った一方で、選手生活を続けるためにアルバイトで生活費や遠征費を稼いでいる人がたくさんいます。東京都が本当にオリンピック運動に貢献するつもりなら、選手やコーチが競技に専念できる環境づくりの支援をやるべきでしょう。これからは真面目なスポーツ支援に力を入れるように求めたいと思います。

村上 知也さん (バドミントン)

正直、「リオに決まって良かったな」という気持ちと「日本でやってもらいたかったな」という気持ちが半々ぐらいですね。バドミントンとしては、まだオリンピック競技としての歴史も浅く、日本も弱いので、東京開催に向けて今のジュニア世代を強化して欲しかったという思いがあります。ただ、今回の招致では、国民が盛り上がっていなかったですね。

村田 博さん (テニス)

オリンピックは石原都知事一人がやりたかったのでは? 周りの人たちの反応もあまりなかったです。一部の企業に利益を上げさせるために行われてたと報道された招致活動の中身も問題ですね。実際にオリンピックでテニスをやるとしたら、有明のテニスコートでは狭すぎて新しい施設をつくる必要があったでしょう。設備の面でも、東京には無理があったと言えます。

五十嵐 修さん (ソフトボール)

つい昨年に北京でやったばかりで、16年にまたアジアというのは無理じゃないかと思っていました。経済状況も良くないし…。招致運動も果たして効率的だったか疑問が残りますね。今後は招致関連イベントなどの豪華なものにお金を使うのではなく、ソフトボール場を増やしたり、IOCに対して、野球とソフトボールの復活のための行動をしてもらいたいですね。

中野 善夫さん (水泳)

多数の都民が望むものではないので、(東京が) 選ばれなくて良かった。今後は東京都にはスポーツ施設の老朽化対処と耐震化をお願いしたい。

上野 敏雄さん（野球）

南米で開催することになって、順当な結果だったんじゃないかなと思います。東京は盛り上がっていませんでしたが、リオはサッカーの世界カップも予定されていたこともあって、勢いがあると感じました。

宮坂 明宏さん（水泳）

（リオに決まったのは）南アメリカ大陸初、が要因。招致費用に 150 億円、こんなに掛けてダメなんて I O C の体制にレッドカード。2020 年は世界中でストップ ザオリンピックを提唱しましょう。

及川 久男さん（サッカー）

（リオに決まって）良かったです。東京都は、福祉とか他にいろいろやるべきことがあると思いますし…。1m1 億円かかると言う環状道路の建設もちょっとどうかと…。底辺のスポーツ愛好者のための運動をしてほしいですね。

IOC 総会開催地 **コペンハーゲン** で 異議あり！ 2016 石原オリンピック連絡会が宣伝！！

東京都連盟事務局長 井上 宣

東京都連盟が参加する「異議あり！ 2016 石原オリンピック連絡会」は、9 月 28 日から 10 月 2 日にかけて、I O C 総会が開催されるコペンハーゲンに訪問団を派遣しました。東京都連盟からは、私がこれに参加し、2016 年オリンピック競技大会の東京招致の問題点を現地でアピールしてきました。

いま、オリンピック運動は、肥大化、経済危機のもとでテレビ放映権料などの莫大な資金集めの問題、勝利至上主義によるドーピング問題など、克服すべき問題点を多く抱えています。これらの理由からこれまで開催できていなかった大陸の一つである南米リオデジャネイロが選ばれたことは、オリンピック運動と競技大会を持続していくために新たな一歩を踏み出した結果として歓迎したいと思います。

現地においても強く感じたこと。それは、「東京は蚊帳の外」ということでした。招致委員会やメディアが熱く盛り上がっていたブラジルやスペインに比べて、日本は静かに内部で盛り上がっている印象を受けました。これは世論の反映であったと思います。

歓迎されていない東京招致がもし実現していれば、多くの矛盾が吹き出し、オリンピック運動にとっても、スポーツ界にとっても、都民・国民にとっても不幸な結果となったことは間違いありません。東京都は今回の結果を真摯に受け止め、「票集めのノウハウ」などという小手先のことでなく、都民に歓迎されるオリンピック運動への貢献を検討するべきでしょう。特に、競技大会の招致への固執ではなく、住民要望にしっかりと耳を傾けるところから始めるべきです。

今回の取り組みを支えていただいたみなさん、ご協力本当にありがとうございました。

東京オリンピック招致関連事項

2005年

9月… 都議会例例会所信表明にて招致を表明

2006年

3月… 都議会「第31回オリンピック競技大会の東京招致に関する決議」

6月… 「開催概要計画書」発表

8月… 新日本スポーツ連盟東京都連盟が東京都に候補都市辞退を申し入れ

JOC選定委員会において国内立候補都市に東京都が決定

11月… 東京オリンピック招致委員会設立

12月… 「10年後の東京」計画発表

2007年

4月… 石原都知事再選

6月… I O C に立候補を通知

2008年

1月… I O C に「申請ファイル」提出

6月… 東京都が五輪開催立候補都市1次選考をトップで通過



現地市民に招致反対の理由を説明する連絡会のメンバー



宣伝中多くのマスコミに注目を浴びました

10月・・・メディアセンター予定地
を築地市場移転跡地から
東京ビッグサイトに

2009年

2月・・・IOCに立候補ファイル提出

3月・・・衆参両院で招致決議

4月・・・「異議あり！2016石原
オリンピック」集会

IOC評価委員会による視察
新日本スポーツ連盟都連盟
井上事務局長がIOCと面談



13団体を中心に開催され、150人超が参加した「異議あり！2016石原オリンピック」集会。シンポジウムのほか会場からも多くの発言があり盛り上がった (2009年4月14日)



東京招致に異議を唱える理由やIOC評価委員会との面談の様子について記者会見を開催。その内容はテレビ等で報道された (2009年4月19日)

6月・・・東京都によるIOCに対する
開催計画説明会

9月・・・IOC評価報告書発表

10月・・・コペンハーゲンでのIOC
総会で2016年オリンピック
開催地はリオに決定、
東京は2番目に落選

2016年オリンピック開催都市の選定に 関連しての新日本スポーツ連盟の見解

新日本スポーツ連盟は、本年5月に、2016年オリンピックの開催都市の選定について基本的な態度を決定し、各方面に働きかけをおこなってきましたが、2016年オリンピックの開催都市がリオデジャネイロに決定したことを受けて、以下の見解を表明するものです。

1、IOC総会（コペンハーゲン）が選出した2016年オリンピックのリオデジャネイロ市開催決定を、新日本スポーツ連盟は歓迎するものです。南米で初めてのオリンピック開催は、五輪マークが示すように、五大陸でのスポーツ文化の発展に合致するからです。

2、新日本スポーツ連盟は、オリンピックが開催されるにふさわしい都市とは以下の要件を満たすものだと考えます。

(1) スポーツを通じて平和に貢献する「オリンピズムの根本原則」の実現をめざす運動を展開すること

(2) 招致の目的や開催計画内容が、住民不在の大型開発に利用されるのではなく、多様な市民の意思を反映し市民のくらしと両立し、簡素で自然に配慮したものであること

(3) 準備過程から開催後も含め、国民の権利としてのスポーツを実現することに貢献すること

以上の視点はきわめて重要であると考えます。

3、東京都の招致活動と開催計画は、「8km圏内に90%の競技施設がある世界一コンパクトな五輪」、「70%は既存施設を利用」などとアピールしてきました。しかし、実際の計画は、都民のスポーツをする権利の保障、都民生活と両立する簡素な計画などの基本からはずれ、「10年後の東京」という都民不在の東京大改造と150億円とも言われる多額な浪費をともなうものだった

たのです。この点から見て、立候補都市のなかで最低の住民支持率しか得られなかった東京が、IOC総会で選出されなかったことは当然であり、その判断は妥当であると言えます。

4、オリンピックは、スポーツを通じての教育・文化・平和の運動です。したがって、その招致の先頭に立つ都市の首長にどのような資質が必要であるかを、スポーツ団体はしっかりと判断を下さねばなりません。石原東京都知事は就任以来、「人種差別発言」「女性と障害者への蔑視発言」「北京五輪のボイコット」などの発言を繰り返しており、そうした発言はオリンピック理念と大きく隔たるものであります。オリンピック開催立候補にあたって、スポーツ団体はこの点をしっかりと見極めることが必要です。

5、新日本スポーツ連盟は、東京都やスポーツ団体・関係者に呼びかけます。今回の結果を真摯に受けとめるならば、国内的には、住民および国民のスポーツをする権利の保障、公共スポーツ施設整備の後退を許さず前進に転化すること、適切なスポーツ振興予算の増額への転換をはかることが必要です。さらに国際的には、オリンピック理念にふさわしい開催方式の改革、未開催地への配慮を含めた連帯的な視点や検討が必要であるという認識に立つことが重要と考えます。関係各位の前向きな討論を期待します。

新日本スポーツ連盟は、今回の結果を日本のスポーツ界全体の重大な問題として受け止め、わが国のスポーツ発展と平和な世界の実現に向け、積極的に発言し、行動する決意です。

2009年10月5日

新日本スポーツ連盟全国理事会

オリンピック「東京招致失敗」にとどまらない大失敗

東京都スポーツ振興基本計画は抜本の見直しを

◆オリンピック招致が都スポーツ行政に歪みを持ち込んだ

「今後とも…スポーツ振興等に積極的に取り組みます」東京都の広報11月号1面でオリンピック招致の結果について報告する石原都知事のコメントは、都のスポーツ振興施策の実態から遠くかけ離れたものでした。

約10年間の石原都政のもと、スポーツ振興施策は激しく歪められてきました。99年度から05年度までのスポーツ振興関連予算は、「財政難」を理由に33%にまで急激に削減されました（年間51億円から17億円）。その結果、慢性的な施設不足と老朽化、施設使用料の大幅な値上げ、「東京スポーツ祭典（主催：新日本スポーツ連盟、共催：東京都）」への共催分担金の削除など、都民スポーツ振興は深刻な打撃を受けてきたのです。

そして、オリンピック招致表明後の06年度予算から、都のスポーツ振興関連予算は急激に増加します（08年度48億円、99年度比94%）。ところが、その内訳を見てみると、05年度までに削減された都民スポーツ振興や都立施設の管理運営費は06年度以降も基本的に増加せず、新たに設けられたオリンピック・東京国体（2013年）向けの予算項目が爆発的に増えているのです。この中には都民が望んでいる



現地視察に訪れたIOC委員に対してアピール行動を行った（2009年4月）

スポーツ施設整備や施設の管理運営費などは入っていません。

◆スポーツ行政を都民スポーツの支援を基本に

また、都は07年秋に突如として新たなスポーツ振興基本計画を策定することを表明し、08年7月に「東京都スポーツ振興基本計画」を発表します。もともと持っていたスポーツ振興基本計画である「東京スポーツビジョン（期間2013年まで）」についてはその総括もなく、オリンピック招致が東京都のスポーツ振興施策の終局的な目標とされたのです。しかもその内容は、都が「オリンピック招致と一体」とする東京都の大規模再開発計画や、東京においては「スポーツ施設は高度に」充実しているという実態を無視した知事サイドの見解を、スポーツ振興行政に持ち込むものだったのです。

都民スポーツの実態には目を向けない「上から目線のイベント型」オリンピック招致は失敗に終わりました。しかも開催都市に選ばれなかったというだけでなく、この立候補自体がオリンピック運動にも都民スポーツにも寄与せず、むしろ悪影響ばかりを残したという面から見れば「大失敗」だったのです。この点を反省せずに冒頭に紹介したような「今後とも…スポーツ振興等に積極的に取り組みます」などという態度では、到底本当の都民スポーツ振興施策の充実は実現されるはずがありません。まじめにスポーツ振興に取り組むのであれば、都民要望に耳を傾け、「東京都スポーツ振興基本計画」を抜本的に見直すことが必要です。これはオリンピック運動への寄与という点でも密接に関係することです。「オリンピズムの根本原則」には「スポーツを行うことは人権の一つ」であり、

「各個人はスポーツを行う機会を与えられなければならない」とうたわれています。都は、公共スポーツ施設などの条件を整備することによってオリンピック運動に寄与することができるのですから、オリンピック競技大会の招致に名乗りを上げた都市として今後は責任をもってこれに取り組むべきです。（編集部）



「異議あり！2016石原オリンピック集会で発言する和食全国連盟理事長（2009年4月）」

オリンピズム根本原則（抜粋）

2 オリンピズムの目標は、スポーツを人間の調和のとれた発達に役立てることにある。その目的は、人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進することにある。

3 オリンピック・ムーブメントは、オリンピズムの諸価値に依って生きようとする全ての個人や団体による、IOCの最高権威のもとで行われる、計画され組織された普遍的かつ恒久的な活動である。それは五大陸にまたがるものである。またそれは世界中の競技者を一堂に集めて開催される偉大なスポーツの祭典、オリンピック競技大会で頂点に達する。そのシンボルは、互いに交わる五輪である。

4 スポーツを行なうことは人権の一つである。各個人はスポーツを行う機会を与えられなければならない。そのような機会は、友情、連帯そしてフェアプレーの精神に基づく相互理解が必須であるオリンピック精神に則り、そしていかなる種類の差別もなく、与えられるべきである。スポーツの組織、管理、運営は独立したスポーツ団体によって監督されなければならない。

「この大会を目標にしよう」

・・・嬉しくて鳥肌が立ちました



10月に行われた杉並卓球協の合宿の集合写真。最後列右から3番目が小林さん

小林章子さん プロフィール

東京都杉並区出身。中学校まではテニス、水泳に、高校、大学は卓球に打ち込む。大学卒業後はしばらく卓球から離れていたが、PTAの卓球大会をきっかけに再開、永福クラブに加入。杉並卓球協議会にも10年以上携わり、現在は運営委員長を務める

愛好者のための大会をやるう

やりたいことは、きちんとやりたいという思いをずっと持ってきました。学生時代にやっていた卓球を再開したのは、子育ての忙しい時でもありましたが、家族と話し合い協力を得て続けてきました。ところが、杉並で行われていた既存の試合は強い人、代表選手を決めるだけのもので、満足できるものではありませんでした。自分たちも含めみんなが楽しめる大会を開きたいと考えていました。そんな時に、当時永福クラブでコーチをしていた北川さん（東京卓球協運営委員長）から誘われて、杉並卓球協議会の運営に加わりました。

杉並卓球協では春と秋に大会を開催し、3年前からは地域卓球協議会としては現在唯一のリーグ戦を始めました。それぞれのクラブの現状をよく交流することで、お互いの練習の場所や

人数の確保など、それぞれが抱える問題の解決策も出てきます。

そして特にジュニア世代を大事にして、勝つだけではないスポーツの楽しさを実感してもらおうと、中高生大会を始めました。始めてみると毎年多くの参加があります。参加した学校の方が、「うちはあまり強くないけど、この大会なら何回も試合が出来て楽しむことができる。毎年の目標にして頑張ろう」と話していたのを聞いたときは、「自分たちのやってきた事が認められた」と、嬉しくて鳥肌が立ちました。これが運営の醍醐味ですね。ジュニア大会は好評なので今年からは年2回開催します。

「できる子」だけが
ヒーローでいいのか

特にジュニア世代に力を入れるには理由があります。今の子供は、スポーツを本当の意味で楽しむ事ができていないのではないのでしょうか。今の体育の授業は「できる子」だけが、ヒーローになり、「できない子」にとっては苦痛な時間です。それに、ただ勝つことにのみ喜びを感じるだけではもったいないし、大人になっても積極的にス

ポーツに関わろうとする人が最近少ない事に影響しているのではないのでしょうか。子供の問題が今の全体の問題につながっていると思います。

勉強も言われたことを黙々と行うのが当たり前。だから、会社でも言われるがままに長時間働かされ、余暇を自由に過ごしたいという発想や要求を奪われてしまっているのだと思います。

スポーツの魅力を実感できる杉並に

この間の努力が実り、ジュニア大会をはじめ、大会には多くの参加者が集まっています。しかし、もっと大きな施設があればより多くの選手に大会の機会を保証できます。そこで、現在は区連盟の強化にも力を入れています。卓球協が会場を半額で利用できるのは、区連盟の存在が区に認められているからこそ。卓球だけでなく、他の種目でもより多くの愛好者の要求を聞き、スポーツを本当にみんなが楽しめる杉並にしていくために、区連盟が果たせる役割は大きいと思っています。まだまだ、区連盟強化の活動は緒に就いたばかりですが、まずは理事の方たちが結集して、お互いの状況をよく知りあうところからはじめて、少しずつでも発展させていきたいですね。

（聞き手 編集委員・渡辺）

スポーツ連盟の他にも、ボランティアで様々な活動に取り組んできた小林さん。「杉の樹大学」という高齢者のための様々な講座を行うNPOで活動されていた時に、いくつになっても生きがいを持って活躍される方の姿を見てエネルギーを貰い、自分もそうありたいと語っていました。今はスポーツ連盟での活動にまさに生きがいを感じているようで、頼もしい限りでした。

東京都連盟 NEWS

空手～尚影塾が今年も抜群の 強さを発揮し、優勝

第46回東京スポーツ祭典空手大会が10月4日、東京武道館第2武道場で開催されました。

このところ、当大会で連戦連勝の尚影塾勢が、工藤豪、工藤真、松本の3選手を中心に総合的に勝利を収めました。テクニック、スピード、共に圧倒的に優れていました。この道場は優秀な先輩をたくさん出しており、後輩たる中学生、小学生にも将来楽しみな選手たちがいます。現在、彼らはこの大会に毎回出場してくる団体の目標になっており、毎年力をつけてきています。今後も目標であり続けてほしいです。

これまで祭典は11月に行われてきました。9月中旬にエントリー締め切りになった今大会は、残念ながら参加選手数は例年の半分でした。大学生は夏休みが終わるか終わらないかの時であり、中高生たちも長い休みの後で、気合いの乗りきらないうちでした。さらにインフルエンザの広がりの影響で、苦しい取り組みとなりました。

しかし、出場選手、役員、審判方の奮闘で熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上げてくれました。

(大会運営委員長 元澤 勇夫)

フット・ア・セットFSGT代表 団来日！ 国際交流の輪が広がる

9月18日から9月20日までの3日間（全日程は27日の大阪まで）を東京で過ごしたFSGT代表団ですが、初日に秋葉原観光と東京サッカー協・都連盟・全国連盟によるレセプション、2日目に歌舞伎観劇と東京RCとの代々木公園ランニング交流、3日目は待ちに待ったフット・ア・セット大会と

充実した内容に満足している様子でした。今回の交流に関わって下さった皆さまに心から感謝申し上げます。

メイン企画のフット・ア・セット大会では、FSGTに土をつけるチームはなかったものの、参加したサンデーA、FCサンデー、虎の穴、FLAT11、バルサン（千葉県サッカー協所属）はどこもフェアプレーでFSGTと渡り合っていました。シニアのサンデーC、虎の穴シニア、四ツ谷もはつらつとしたプレーを披露してくれました。この競技は「勝つことよりもスポーツを楽しむこと」に主眼を置いていますが、まさに言葉や文化の壁を超えた素晴らしい国際交流の機会となりました。

(東京サッカー協 宇野 健治)



ゴルフ～爽やかな秋晴れの下、 難コースにチャレンジ！

10月12日、栃木県の大平台カントリークラブで、第46回東京スポーツ祭典ゴルフコンペが開催されました。天気は快晴でとても暖かく最高のゴルフ日和。東京ゴルフ協が主催した最近のコンペは雨ばかりだったので「今回こそ大丈夫だろうね」と心配の声が上がっていただけに、まずはほっと一息でした。

大平台カントリークラブは山間コースで、多くのホールが上り下り+砲台グリーンというコースレイアウトです。ティーショットの飛距離はもちろん重要ですが、左右がフェアウェイに向かった斜面であることが多かったため、多少のミスは「大事故」にはつながらない設計となっていました。難し

かったのはなんとと言ってもグリーンを狙うショット。飛距離がある場合には、登りの距離感が難しく、グリーンに届かないことが多くあったようです。しかもほぼすべてのグリーンが「砲台型（フェアウェイより一段高く盛り上げられている）」であったため、この攻略がスコアに結びついたようです。

グロス上位4名は80代のスコアで終了しましたが、80代前半はグロス優勝の東野さん（G81）のみであったことからなかなかの難関コースであったことがわかります。参加者数は13名と少し寂しい数でしたが、参加者それぞれが難しいコースに思い切って挑戦することができた一日となりました。（東京ゴルフ協 井上 宣）



サッカー～優勝はFC BEE！ 半年間に及んだ祭典

東京スポーツ祭典サッカー大会は、8チーム（協議会内4、協議会外4）参加で6月14日から7月26日まで予選リーグを行い、9月より決勝トーナメントを始め、10月25日の3位決定戦で終了しました。

結果は優勝 FC BEE、2位 アンテリ大田、3位 浦和でした。

参加チームが少ないにもかかわらず、大会期間が長いのはグラウンドが思うように確保できないため、大会運営の大きな問題です。グラウンドが豊富に確保できれば参加チーム募集を積極的に行い大会をもっと盛り上げることが出来ると思うと残念です。

(大会運営委員長 木村 勝弘)

主な議題

- ・オリンピック東京招致問題
- ・今後の都スポーツ振興施策
- ・都民生活要求大行動
- ・全国連盟総会準備
- ・各組織の月次報告
- ・杉並区連盟確立対策

「都は都民要望に基づくスポーツ振興施策を」

2016年オリンピック競技大会はリオデジャネイロで開催されることが決定しました。井上事務局長からコペンハーゲン訪問の報告と、今後の東京のスポーツ振興施策が立候補都市にふさわしく展開されるべきであることなどが報告されました。10月29日の都民生活要求大行動に都連盟として出席し、この問題について求めることとしました（理事会から6名参加）

「全国連盟総会成功にむけて」

来年開催の全国連盟総会（3/14/15）にむけて都連盟として選出する評議員、理事、代議員等について話し合われました。

経過と予定

- 9/14 第6回理事会
- 9/15 第14回東京反核平和マラソン実行委員会（第5回）
- 9/18 FSGTフット・ア・セット代表団来日・歓迎会（全国、東サッカー、都連盟）
- 9/25 都民生活要求大行動実行委員会
- 9/28 IOC総会代表団派遣
- 10/3,4 全国連盟理事会
- 10/5 共済東京懇話会
- 10/8 異議あり！2016石原オリンピック連絡会
- 10/8 「OURSPORTS 東京」編集会議
- 10/9 都民連宣伝行動（井上）
- 10/10 スポーツ「9条の会」学習会（オリンピック）
- 10/13 第7回理事会
- 10/14 都民生活要求大行動実行委員会（第4回）
- 10/29 都民生活要求大行動全体交渉日
- 10/31 東京スキー協40周年レセプション
- 11/5 「OURSPORTS 東京」編集会議
- 11/9 第8回理事会
- 11/13 都民宣伝実行委員会
- 12/3 「OURSPORTS 東京」編集会議
- 12/14 第9回理事会

全国連盟国際交流報告【韓国】 充実した2日間、深まった理解

韓国体育市民連帯訪問を終えて

全国連盟事務局長 桑名 令子

10月15～18日の3日間、08年10月に始まった韓国体育市民連帯と新日本スポーツ連盟との相互交流の一環として、桑名令子（団長）、青沼裕之（全国連盟理事）、佐藤好行（全国連盟国際活動交流会議メンバー、神奈川県連盟理事）の3名が韓国を訪問しました。

16日午後、大田市（テジョン市）忠南大学ハクバホールで行われた第90回全国体育大会記念学術大会において、「地域に根ざした新日本スポーツ連盟の活動」をテーマに、青沼さんが発表。

韓国体育・スポーツ関係者に「スポーツ連盟の存在」をアピールできたのは意義あることでした。

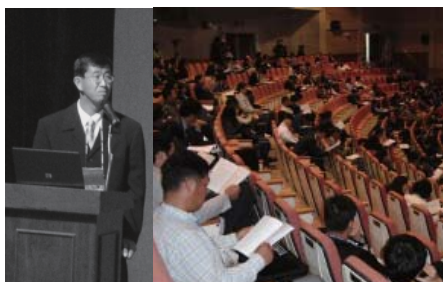
17日午後16時半から、両組織の懇談が体育市民連帯の事務所で行われ、韓国体育市民連帯から、キム・サンボム

執行委員長、ホ・ジョンファン事務総長、イ・セファン事務局次長が出席しました。通訳はユン・サンシュンさん。

2010年の来日時期、東京～広島～長崎反核平和マラソンへの対応など、互いの要望を出しあい、意見を交換しました。また、体育市民連帯からは、地方へどう組織を広げていくか、今後の交流の中で経験を学びたいとの要望が出されています。

市民連帯事務所を訪問する前に、韓国で平和運動に携わるキム・ドクチン氏と、2010年東京～広島～長崎反核平和マラソンへの参加要請も含め懇談。キムさんは「ぜひ参加したい」とのことでした。

実質2日間の短さでしたが、国を越えた協力・共同の可能性を感じた訪問でした。



忠南大学ハクバホールで行われた発表の様子



明洞大聖堂前（右から2人目がキムさん）



夕食会には韓日合わせ13名が参加

都連盟スポーツカレンダー 2009年12月、10年1月

卓球

・東京後期リーグ 12/5、9 1/27、28 中野体育館、上板橋体育館、町田総合体育館、東京体育館

中野区

・中野加盟クラブ交流大会 1/10(日) 中野体育館

板橋区

・トリオ・ザ・マッチ 12/19(土) 上板橋体育館

杉並区

・杉並クリスマス大会 12/23(水) 上井草スポーツセンター

・杉並スポーツ祭典・ジュニア大会 1/7(木) 荻窪体育館

・杉並後期リーグ 1/10(日) 上井草スポーツセンター

練馬区

・新春大会 1/10(日) 光ヶ丘体育館

多摩地区

・多摩ミックス団体戦 1/11(月) 柴崎体育館

新宿区

・2010 新宿新春ペアマッチ卓球大会 1/11(月・祝) 新宿スポーツセンター

大田区

・プログレッシブリーグ大会 1/20(水) 大森スポーツセンター

陸上

・第8回検見川クロスカントリー大会 12/20(日) 千葉・東京大学検見川総合運動場

・12月度月例ランニング講習会 12/27(日) BumB(東京スポーツ文化館 研修ルームB)

・1月度月例ランニング講習会 1/24(日) 未定

北区

・月例赤羽マラソン 12/27、1/24(日)

岩淵堤防土手

多摩地区

・月例多摩川ロードレース 12/13、1/10(日) 多摩川・国立ロードコース

水泳

・第11回中長距離水泳大会 12/6(日) 東京辰巳国際水泳場

・水泳技術講習会 兼認定指導員技術研修会 1/10(日) 東京体育館第2会議室

スキー

・指導員研修会 12/19、20 1/16、17 志賀高原スキー場

・冬休みジュニアスキー 12/25～27(木～土) かたしなスキー場

・越年スキー 12/29～1/3 秋田八幡平スキー場

テニス

・連盟杯テニストーナメント 12/13、20、23 都立有明テニスの森公園テニスコート

北区

・第47回北区スポーツ祭典硬式テニスシングルス大会 12/13(日) 桐ヶ丘体育館コート

練馬区

・第16回ウィークデーマッチ 12/3、10、17(木) 夏の雲テニスコート

板橋区

・連盟杯男子ダブルス大会 12/20(日) 加賀テニスコート

・新春男子シングルス大会 1/10(日) 新河岸テニスコート

・新春女子シングルス大会 1/23(土) 新河岸テニスコート

中野区

・新日本スポーツ連盟 クリスマステニストーナメント 12/6(日) 哲学堂テニスコート

・ニューイヤー・テニス交流会 1/10(日)

哲学堂テニスコート

・テニス教室A・Bコース第3期 10/19～12/28(月) 中野体育館

・テニス教室C・Dコース第4期 11/5～12/24(木) 中野体育館

・テニス教室E・Fコース第3期 12/3～2010年3/25(木) 哲学堂テニスコート

バドミントン

・第5回関東オープン団体戦 1/23(土) 荒川スポーツセンター

北区

・北区スポーツ祭典 12/23(水) 桐ヶ丘体育館

練馬区

・練馬バドミントン教室 12/26(土) 光ヶ丘体育館

・第3回練馬冬季大会 1/17(日) 光ヶ丘体育館

板橋区

・板橋区高校生オープン 12/23、24(水、木)

赤塚体育館、上板橋体育館

杉並区

・杉並スポーツ祭典 12/13(日) 荻窪体育館

新宿区

・新宿オープン団体リーグ戦 12/27(日) 新宿スポーツセンター

サッカー

北区

・第47回北区スポーツ祭典フットサル大会 12/6、20(日) 西浮間小体育館

バスケットボール

北区

・第47回北区スポーツ祭典 12/6(日) 桐ヶ丘体育館、十条台小体育館

バレーボール

北区

・バレーボールリーグ戦秋季大会 12/19(土) 桐ヶ丘体育館

板橋区

・板橋レディースバレーボールオープンリーグ大会 12/23(水)、1/17、24(日) 赤塚体育館

野球

北区

・北区連盟リーグ戦 12/6、20、1/17、31(日) 中央公園野球場、又は新荒川大橋野球場

ウォーキング

・お台場ウォッチング 12/10(木) JR 田町駅 芝浦口集合

・浅草の町を探索 12/19(土) 地下鉄銀座線 浅草駅(吾妻橋方面)集合

・東久留米七福神めぐり 1/23(土) 西武池袋線 東久留米駅集合

～編集後記～

五輪招致はスポーツ振興を踏まえた「スポーツは平和とともに」であって！

広島市長と長崎市長とが2020年五輪候補都市に名乗りをあげたことについて、さまざまな考えがあろうかと思う。私は個人的には、無条件賛成というのではなく、スポーツがどのように位置づけられるかが基本だと考えている。10月28日付けの東京新聞には両市長の東京都の猪瀬副知事への訪問記事で競争関係になるかもしれないが「温かい激励をいただいた。五輪の基本精神のフェアプレーを実行してくれた」との感想が述べられている。これまでの両市の立候補関連記事を見る限りでは、市民のためのスポーツ振興の視点が一向に見えてこない。

私は言いたい。五輪招致を東京大改造に利用した相手に、招致を相談するのではなく、その五輪招致に異義ありと主張したスポーツ連盟や賛意を表しなかった広範な都民の意見こそ聞くべきだと思う。

クーベルタンやその後のIOCの先人たちは、世界化したスポーツについて、スポーツとそのあり方・実践を突き詰めて、平和や人権を意識したのである。

「スポーツは平和のために」、平和が第一だから、その実現のためにスポーツがあるということになってはいけぬ。

そうすると、スポーツ連盟のスローガン「スポーツは平和とともに」がますます光って見える。 伊賀野 明